

紙おむつの利用が赤ちゃ
んだけでなく、高齢化社会
を反映して、お年寄りの間
でも増えている。そこで、
問題となるのが、原料の木
材資源への影響や、使用後
に焼却処分することによる
大気汚染。それなら」と、
使用済み紙おむつの再利用
に取り組み国内初の工場が
この春から、福岡県大牟田
市健老町で稼働している。

紙おむつ

販売会社も経営している。
再利用に取り組んだのは、
1997年に「焼却施設が
毒性の強いダイオキシン
が発生していることが問題
になっていく」とのニュー
スを見たのがきっかけ。
「紙おむつを焼却しない
と、工場では、これから真
つ白な上質のバルプと、低
質のバルプを取り出す。
上質のバルプは現在、壁
などの建築資材や紙容器に
利用している。しかし、処理
量が増え、メーカーに安定
して供給できるようになれ



使用済みの紙おむつからできた真っ白な
上質バルプ（福岡県大牟田市の工場で）

工場の名称は「ラブ・フ
ォレスト大牟田」。ラブ・
フォレストは英語で「森を
愛する」という意味だ。運
営しているのは、福岡市の
「トータルケア・システム」
の長武志社長(60)で、
再利用の技術は福岡県や福
岡大と共同で開発した。
紙おむつの主な素材は、
バルプと、排せつ物の水分
を吸い取る高分子吸収剤、
それに全体を包むビニ

ば、紙おむつとして再利用
してもらおう計画だ。低質の
バルプの方は、土壌改良剤
などに役立てている。1日
の処理能力は約10万枚(20
ト)。当初は約4トの処理
だったが、現在は同県や佐
賀県の介護施設など計約1
20か所から12トが持ち込
まれ、1トあたり5万円代
バルプを取り出している。

で済む方法はないだろう
か」。知人に紹介された福
岡大の松藤康司教授(57)
(環境工学)に相談して、
翌年から実験が始まった。
その結果、切り刻んだ紙
おむつをビーカーに入れ、
塩化カルシウムを加えてか

リサイクル



再生された紙おむつを披露する長社長

▶ 紙容器・土壌改良剤…

国内初の工場
大牟田で操業

日本衛生材料工業連合会
(東京)によると04年の紙お
むつの使用量は乳幼児用が
65億6900
0万枚(25
万2000
ト)、大人用
が約34億枚



高齢化で使用増 環境保護に注目

(約16万6000ト)。大
人用は1995年に比べて
約20億枚も増えている。
このため、紙おむつメー
カー最大のユニ・チャー
ムは「紙おむつのゴミが将
来、大きな社会問題とな
る可能性がある。再利用への
取り組みは重要」として、
トータルケア・システム社
に出資しているほど。
環境保護団体も取り組み
を評価し、再生バルプを使
った土壌改良剤で綿花を栽
培したり、再利用の紙おむ
つのファッシュンショーを
計画したりしている。
長さんは「技術を広く伝
え、世界の環境保護につな
げたい」と張り切っている。
山田真也